

8-5 鉄骨工事	<p>13 耐火被覆</p> <p>種別等 [8.17.2~7]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>所要性能及び適用箇所</th> </tr> <tr> <td>耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式吹付けロックウール</td> </tr> <tr> <td>耐火板張り</td> <td>・耐火材巻付け ・ラス張りモルタル塗り</td> </tr> </table> <p>耐火被覆面への錆止め塗装 ・行わない ・行う (適用箇所:)</p>	種別	所要性能及び適用箇所	耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式吹付けロックウール	耐火板張り	・耐火材巻付け ・ラス張りモルタル塗り	<p>8-8 耐震スリット新設工事</p> <p>1 スリットの施工</p> <p>既存撤去部の配管等の調査 [8.22.2] ※鉄筋探査機 (金属探知機) により調査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる [8.22.2] スリットの幅及び深さ ※図示</p> <p>分析によるアスベスト含有の調査 [9.1.1] ・行う (採取箇所 ※図示) 調査方法</p> <table border="1"> <tr> <th>材料名</th> <th>調査方法 (1材料当たりの試料数)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・</td> </tr> </table> <p>分析方法 ※JIS A 1481 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法) による 分析結果については、監督職員に報告すること 報告書の様式 ・ (社) 日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1] ・行う (測定箇所 ※図示) 測定時期、場所及び測定点数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点数 (各処理作業室ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>各 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定2</td> <td>処理作業中</td> <td>施工区面周辺 又は敷地境界</td> <td>計2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>各 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>セキュリティゾーン 入口</td> <td>各1点</td> <td>空気の流れを確認</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定5</td> <td>処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> <td>各1点</td> <td>除じん装置の性能確認</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定6</td> <td>処理作業後</td> <td>施工区面周辺 又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定7</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>各 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定8</td> <td>処理作業後</td> <td>施工区面周辺 又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 施工区面とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理室に直接又は間接的に係る区画、施工区面周辺とは、その区画境界の前後1m以内の範囲をいう。 (2) 処理作業室の面積が50㎡以下の場合には2点、300㎡までは3点とする。300㎡を超えるような場合は、監督職員と協議する。</p> <p>測定方法 JIS K 3850-1 (空気中の繊維状粒子測定方法-第1部: 光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法) による。 種類 ※位相差顕微鏡法 試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法として使用し、他方はその結果が高い場合 (10本/L以上) に行う位相差・分散顕微鏡法に保存しておく。 ・位相差、分散顕微鏡法 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。</p> <table border="1"> <tr> <td>測定3 (作業環境)</td> <td>測定1, 4, 5, 7 (室内環境)</td> <td>測定2, 6, 8 (大気環境)</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>25</td> <td>47</td> </tr> </table> <p>測定記録項目 (1) 除去するアスベスト含有建材の種類 (2) 測定点の位置の図面 (3) 測定日時、天候、気流 (4) 試料採取条件 (5) 標本作製方法 (6) 使用顕微鏡の種類 (開口数を含む) (7) 計数条件 (HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む) (8) 繊維濃度 (位相差顕微鏡法の場合は総繊維濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維濃度) (9) 測定限界 (10) その他</p> <p>アスベスト含有吹付け材の除去 (レベル1) ・行う [9.1.3] 除去対象範囲 ※図示 除去方法 ※改修標仕9.1.3(b)(1)(i)~(w)による 除去したアスベスト含有吹付け材等の処理 ※密封処理 (二重袋梱包) ・セメント固化 除去対象範囲 ※図示 作業場の隔離 ・行う ・行わない</p> <p>アスベスト含有保温材等の除去 (レベル2) ・行う [9.1.4] 除去対象範囲 ※図示</p> <p>アスベスト含有成形板の除去 (レベル3) ・行う [9.1.5]</p>	材料名	調査方法 (1材料当たりの試料数)		※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・		※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・		※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備考	・	測定1	処理作業前	処理作業室内	各 () 点		・	測定2	処理作業中	施工区面周辺 又は敷地境界	計2点		・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各 () 点		・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン 入口	各1点	空気の流れを確認	・	測定5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	各1点	除じん装置の性能確認	・	測定6	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点		・	測定7	処理作業後	処理作業室内	各 () 点		・	測定8	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点		測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)	25	25	47	<p>2 外断熱改修工事</p> <p>断熱材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類</th> <th>ホルムアルデヒド放散による区分</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>外装材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ・あり ・なし [9.3.3] 下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様 [9.3.3.4] 通気層 ・あり (mm) ・なし [9.3.4] 試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。 [9.3.4] 特記なき事項は、製造所の仕様による。</p> <p>3 ガラス改修工事 [9.4.2] 復原ガラスの厚さ 建具表による 復原ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分 ※U値=1 ・U値=2 [9.4.2]</p> <p>4 断熱・防露改修工事 [9.5.2.3]</p> <p>断熱材の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類等</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・保温板2種b</td> <td>※25</td> <td>※一般部</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・保温板3種b (スキン層付き)</td> <td>※25</td> <td>・接部分</td> </tr> <tr> <td>・吹付け硬質ウレタンフォーム</td> <td>※A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>打込み工法 ・吹付け硬質ウレタンフォーム ※A種 [G] 難燃性を有するもの ※断熱材補修部分</p> <p>現場発泡工法 ・吹付け硬質ウレタンフォーム ※A種 [G] 難燃性を有するもの ※断熱材補修部分</p> <p>5 屋上緑化改修工事 [9.6.1.2] 植栽基盤及び材料 [9.6.1.2] ・屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の種類等 ※図示</p> <p>工法 [9.6.3] かん水装置 ・設置する (工事区分は図示による) 既存保護層の撤去 ・行う</p> <p>6 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.7.3] 路床の構成及び厚さ [9.7.3] ・遮断層 厚さ (mm) ※150 ・凍上抑制層 厚さ (mm) ※150 ・フィルター層 厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※50</p> <p>路床安定処理 ※添加材料による安定処理 添加材料の種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 () kg/m (目標CBR ※5以上) ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m²以上 厚さ (mm) 0.5~1.0 引張強度 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1.5×10cm/sec以上</p> <p>塵土の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</p> <p>遮断層及び凍上抑制層の材料 ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込砂利 ・砂 厚さは図示</p> <p>発生土の処理 ※横外搬出適切処理 ・構内指定場所に敷均し ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に処分 (搬出調査等を監督職員に提出する)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ※行う ・行わない 路床の軟固め試験 ※行う ・行わない 砂の粒度試験 ※行う ・行わない</p> <p>路盤材料 [9.7.4] ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G]</p> <p>路盤厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※100</p> <p>路盤の締固め試験 ※行う ・行わない</p> <p>舗装材料及び厚さ [9.7.5.6] 車道部 ※改質アスファルト I 型 厚さ (mm) ※50 歩道部 ※ストレーアスファルト 厚さ (mm) ※30</p> <p>透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない [9.7.9]</p>	種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・	・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・	種類	防火性能	・	・	種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	※25	※一般部	・硬質ウレタンフォーム保温材	・保温板3種b (スキン層付き)	※25	・接部分	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	・	・	<p>7 PCB含有シーリング材処分</p> <p>・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する 採取箇所 計 箇所 採取箇所 ※図示</p> <p>・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析箇所 計 箇所</p> <p>・除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 「標準施工要領書」(日本シーリング工事業共同組合連合会・日本シーリング材工業会) による</p>																																						
種別	所要性能及び適用箇所																																																																																																																																																																							
耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式吹付けロックウール																																																																																																																																																																							
耐火板張り	・耐火材巻付け ・ラス張りモルタル塗り																																																																																																																																																																							
材料名	調査方法 (1材料当たりの試料数)																																																																																																																																																																							
	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・																																																																																																																																																																							
	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・																																																																																																																																																																							
	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・																																																																																																																																																																							
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備考																																																																																																																																																																			
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	各 () 点																																																																																																																																																																				
・	測定2	処理作業中	施工区面周辺 又は敷地境界	計2点																																																																																																																																																																				
・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各 () 点																																																																																																																																																																				
・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン 入口	各1点	空気の流れを確認																																																																																																																																																																			
・	測定5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	各1点	除じん装置の性能確認																																																																																																																																																																			
・	測定6	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																																																																				
・	測定7	処理作業後	処理作業室内	各 () 点																																																																																																																																																																				
・	測定8	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																																																																				
測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)																																																																																																																																																																						
25	25	47																																																																																																																																																																						
種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)																																																																																																																																																																					
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
種類	防火性能																																																																																																																																																																							
・	・																																																																																																																																																																							
種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																																																																																					
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・																																																																																																																																																																					
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	※25	※一般部																																																																																																																																																																					
・硬質ウレタンフォーム保温材	・保温板3種b (スキン層付き)	※25	・接部分																																																																																																																																																																					
・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	・	・																																																																																																																																																																					
8-6 グラウト工事	<p>1 モルタル及びグラウト材</p> <p>構造体用モルタル ※ [8.2.10] 及び [8.5.10] による [8.2.10] [8.5.10] 柱底均しモルタル [8.2.10] ※無収縮モルタル グラウト材 [8.2.10] ※無収縮グラウト材 (セメント、混和材、砂は無収縮モルタルに準ずる)</p> <p>無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は次による 無収縮モルタルの材料及び割合</p> <table border="1"> <tr> <th>混和材</th> <td>セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする</td> </tr> <tr> <th>セメント</th> <td>JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする</td> </tr> <tr> <th>砂</th> <td>(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 (各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1</td> </tr> </table> <p>配合比 (各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1</p> <p>無収縮モルタルの品質及び試験方法 [表8.2.8]</p> <table border="1"> <tr> <th>コンシステンシー</th> <td>Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒</td> </tr> <tr> <th>ブリーディング</th> <td>練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下</td> </tr> <tr> <th>凝結時間</th> <td>凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内</td> </tr> <tr> <th>無収縮性</th> <td>材齢 7日 収縮しないこと</td> </tr> <tr> <th>圧縮強度</th> <td>材齢 3日 25.0 N/mm² 以上 材齢 28日 45.0 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>付着強度</th> <td>材齢 28日 3.0 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>塩化物量</th> <td>0.30kg/m³ 以上</td> </tr> <tr> <th>試験方法</th> <td>(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。</td> </tr> </table> <p>無収縮グラウト材の材料 (プレミックス及び現場調合形)</p> <table border="1"> <tr> <th>混和材</th> <td>セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする</td> </tr> <tr> <th>セメント</th> <td>JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする</td> </tr> <tr> <th>砂</th> <td>(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。</td> </tr> </table> <p>無収縮グラウト材の品質及び試験方法 (現場調合形においては標準使用量・配合値)</p> <table border="1"> <tr> <th>コンシステンシー</th> <td>Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒</td> </tr> <tr> <th>ブリーディング</th> <td>練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下</td> </tr> <tr> <th>凝結時間</th> <td>凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内</td> </tr> <tr> <th>無収縮性</th> <td>材齢 7日 収縮しないこと</td> </tr> <tr> <th>圧縮強度</th> <td>材齢 3日 20.0 N/mm² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>付着強度</th> <td>材齢 28日 2.5 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>塩化物量</th> <td>0.30kg/m³ 以上</td> </tr> <tr> <th>試験方法</th> <td>(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 なお、プレミックス形と現場調合形と混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。</td> </tr> </table>	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする	セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする	砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 (各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1	コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒	ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内	無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと	圧縮強度	材齢 3日 25.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 45.0 N/mm ² 以上	付着強度	材齢 28日 3.0 N/mm ² 以上	塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする	セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする	砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。	コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒	ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内	無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと	圧縮強度	材齢 3日 20.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm ² 以上	付着強度	材齢 28日 2.5 N/mm ² 以上	塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 なお、プレミックス形と現場調合形と混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。	<p>9 環境配慮改修工事</p> <p>1 アスベスト含有建材の処理工事 [9.1.1]</p> <p>分析によるアスベスト含有の調査 [9.1.1] ・行う (採取箇所 ※図示) 調査方法</p> <table border="1"> <tr> <th>材料名</th> <th>調査方法 (1材料当たりの試料数)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・</td> </tr> </table> <p>分析方法 ※JIS A 1481 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法) による 分析結果については、監督職員に報告すること 報告書の様式 ・ (社) 日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1] ・行う (測定箇所 ※図示) 測定時期、場所及び測定点数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点数 (各処理作業室ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>各 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定2</td> <td>処理作業中</td> <td>施工区面周辺 又は敷地境界</td> <td>計2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>各 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>セキュリティゾーン 入口</td> <td>各1点</td> <td>空気の流れを確認</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定5</td> <td>処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> <td>各1点</td> <td>除じん装置の性能確認</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定6</td> <td>処理作業後</td> <td>施工区面周辺 又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定7</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>各 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定8</td> <td>処理作業後</td> <td>施工区面周辺 又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 施工区面とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理室に直接又は間接的に係る区画、施工区面周辺とは、その区画境界の前後1m以内の範囲をいう。 (2) 処理作業室の面積が50㎡以下の場合には2点、300㎡までは3点とする。300㎡を超えるような場合は、監督職員と協議する。</p> <p>測定方法 JIS K 3850-1 (空気中の繊維状粒子測定方法-第1部: 光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法) による。 種類 ※位相差顕微鏡法 試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法として使用し、他方はその結果が高い場合 (10本/L以上) に行う位相差・分散顕微鏡法に保存しておく。 ・位相差、分散顕微鏡法 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。</p> <table border="1"> <tr> <td>測定3 (作業環境)</td> <td>測定1, 4, 5, 7 (室内環境)</td> <td>測定2, 6, 8 (大気環境)</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>25</td> <td>47</td> </tr> </table> <p>測定記録項目 (1) 除去するアスベスト含有建材の種類 (2) 測定点の位置の図面 (3) 測定日時、天候、気流 (4) 試料採取条件 (5) 標本作製方法 (6) 使用顕微鏡の種類 (開口数を含む) (7) 計数条件 (HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む) (8) 繊維濃度 (位相差顕微鏡法の場合は総繊維濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維濃度) (9) 測定限界 (10) その他</p> <p>アスベスト含有吹付け材の除去 (レベル1) ・行う [9.1.3] 除去対象範囲 ※図示 除去方法 ※改修標仕9.1.3(b)(1)(i)~(w)による 除去したアスベスト含有吹付け材等の処理 ※密封処理 (二重袋梱包) ・セメント固化 除去対象範囲 ※図示 作業場の隔離 ・行う ・行わない</p> <p>アスベスト含有保温材等の除去 (レベル2) ・行う [9.1.4] 除去対象範囲 ※図示</p> <p>アスベスト含有成形板の除去 (レベル3) ・行う [9.1.5]</p>	材料名	調査方法 (1材料当たりの試料数)		※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・		※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・		※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備考	・	測定1	処理作業前	処理作業室内	各 () 点		・	測定2	処理作業中	施工区面周辺 又は敷地境界	計2点		・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各 () 点		・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン 入口	各1点	空気の流れを確認	・	測定5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	各1点	除じん装置の性能確認	・	測定6	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点		・	測定7	処理作業後	処理作業室内	各 () 点		・	測定8	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点		測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)	25	25	47	<p>2 外断熱改修工事</p> <p>断熱材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類</th> <th>ホルムアルデヒド放散による区分</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>外装材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ・あり ・なし [9.3.3] 下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様 [9.3.3.4] 通気層 ・あり (mm) ・なし [9.3.4] 試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。 [9.3.4] 特記なき事項は、製造所の仕様による。</p> <p>3 ガラス改修工事 [9.4.2] 復原ガラスの厚さ 建具表による 復原ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分 ※U値=1 ・U値=2 [9.4.2]</p> <p>4 断熱・防露改修工事 [9.5.2.3]</p> <p>断熱材の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類等</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・保温板2種b</td> <td>※25</td> <td>※一般部</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・保温板3種b (スキン層付き)</td> <td>※25</td> <td>・接部分</td> </tr> <tr> <td>・吹付け硬質ウレタンフォーム</td> <td>※A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>打込み工法 ・吹付け硬質ウレタンフォーム ※A種 [G] 難燃性を有するもの ※断熱材補修部分</p> <p>現場発泡工法 ・吹付け硬質ウレタンフォーム ※A種 [G] 難燃性を有するもの ※断熱材補修部分</p> <p>5 屋上緑化改修工事 [9.6.1.2] 植栽基盤及び材料 [9.6.1.2] ・屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の種類等 ※図示</p> <p>工法 [9.6.3] かん水装置 ・設置する (工事区分は図示による) 既存保護層の撤去 ・行う</p> <p>6 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.7.3] 路床の構成及び厚さ [9.7.3] ・遮断層 厚さ (mm) ※150 ・凍上抑制層 厚さ (mm) ※150 ・フィルター層 厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※50</p> <p>路床安定処理 ※添加材料による安定処理 添加材料の種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 () kg/m (目標CBR ※5以上) ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m²以上 厚さ (mm) 0.5~1.0 引張強度 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1.5×10cm/sec以上</p> <p>塵土の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</p> <p>遮断層及び凍上抑制層の材料 ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込砂利 ・砂 厚さは図示</p> <p>発生土の処理 ※横外搬出適切処理 ・構内指定場所に敷均し ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に処分 (搬出調査等を監督職員に提出する)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ※行う ・行わない 路床の軟固め試験 ※行う ・行わない 砂の粒度試験 ※行う ・行わない</p> <p>路盤材料 [9.7.4] ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G]</p> <p>路盤厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※100</p> <p>路盤の締固め試験 ※行う ・行わない</p> <p>舗装材料及び厚さ [9.7.5.6] 車道部 ※改質アスファルト I 型 厚さ (mm) ※50 歩道部 ※ストレーアスファルト 厚さ (mm) ※30</p> <p>透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない [9.7.9]</p>	種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・	・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・	種類	防火性能	・	・	種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	※25	※一般部	・硬質ウレタンフォーム保温材	・保温板3種b (スキン層付き)	※25	・接部分	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	・	・	<p>7 PCB含有シーリング材処分</p> <p>・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する 採取箇所 計 箇所 採取箇所 ※図示</p> <p>・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析箇所 計 箇所</p> <p>・除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 「標準施工要領書」(日本シーリング工事業共同組合連合会・日本シーリング材工業会) による</p>
混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする																																																																																																																																																																							
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする																																																																																																																																																																							
砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 (各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1																																																																																																																																																																							
コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒																																																																																																																																																																							
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下																																																																																																																																																																							
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内																																																																																																																																																																							
無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと																																																																																																																																																																							
圧縮強度	材齢 3日 25.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 45.0 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																							
付着強度	材齢 28日 3.0 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																							
塩化物量	0.30kg/m ³ 以上																																																																																																																																																																							
試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。																																																																																																																																																																							
混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする																																																																																																																																																																							
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする																																																																																																																																																																							
砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。																																																																																																																																																																							
コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒																																																																																																																																																																							
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下																																																																																																																																																																							
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内																																																																																																																																																																							
無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと																																																																																																																																																																							
圧縮強度	材齢 3日 20.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																							
付着強度	材齢 28日 2.5 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																							
塩化物量	0.30kg/m ³ 以上																																																																																																																																																																							
試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 なお、プレミックス形と現場調合形と混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。																																																																																																																																																																							
材料名	調査方法 (1材料当たりの試料数)																																																																																																																																																																							
	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・																																																																																																																																																																							
	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・																																																																																																																																																																							
	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (・3) ・																																																																																																																																																																							
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備考																																																																																																																																																																			
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	各 () 点																																																																																																																																																																				
・	測定2	処理作業中	施工区面周辺 又は敷地境界	計2点																																																																																																																																																																				
・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各 () 点																																																																																																																																																																				
・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン 入口	各1点	空気の流れを確認																																																																																																																																																																			
・	測定5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	各1点	除じん装置の性能確認																																																																																																																																																																			
・	測定6	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																																																																				
・	測定7	処理作業後	処理作業室内	各 () 点																																																																																																																																																																				
・	測定8	処理作業後	施工区面周辺 又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																																																																				
測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)																																																																																																																																																																						
25	25	47																																																																																																																																																																						
種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)																																																																																																																																																																					
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
種類	防火性能																																																																																																																																																																							
・	・																																																																																																																																																																							
種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																																																																																					
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・																																																																																																																																																																					
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	※25	※一般部																																																																																																																																																																					
・硬質ウレタンフォーム保温材	・保温板3種b (スキン層付き)	※25	・接部分																																																																																																																																																																					
・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	・	・																																																																																																																																																																					
8-7 連続繊維補強工事	<p>1 連続繊維補強工法 [8.21.7]</p> <p>連続繊維補強工法 [8.21.7] ・「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」(財)日本建築防災協会発行の第4章[補強工事の施工]による工法又は同等の性能を有する工法 ・(財)日本建築防災協会の評価を受けた工法</p> <p>2 連続繊維シート [8.2.11] [8.2.11]</p> <p>連続繊維の材料 [8.2.11] ・炭素繊維 ・アラミド繊維 ・ガラス繊維</p> <p>連続繊維の材質 [8.2.11]</p> <table border="1"> <tr> <th>引張強度 (含浸硬化後)</th> <td>・ () N/mm² ・</td> </tr> <tr> <th>ヤング係数 (含浸硬化後)</th> <td>・ () N/mm² ・</td> </tr> <tr> <th>繊維目付質量</th> <td>・ () g/m² ・</td> </tr> <tr> <th>シート厚さ</th> <td>・ () mm ・</td> </tr> <tr> <th>シート張り方向</th> <td>※図示</td> </tr> <tr> <th>定着方法</th> <td>※図示</td> </tr> <tr> <th>含浸接着樹脂</th> <td>・低臭型 ・</td> </tr> <tr> <th>プライマー</th> <td>・低臭型 ・</td> </tr> </table> <p>下地処理 [8.21.7]</p> <p>仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱の隅角部の面取り</p> <table border="1"> <tr> <th>箇所</th> <td>※図示</td> </tr> <tr> <th>大きさ</th> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>下地調整 [8.21.7] ひび割れ部改修 [8.21.7] 種類及び部位 [8.21.7] 引張強度試験 [8.21.7] 試験数量 [8.21.7] 付着強度試験 [8.21.7] 試験数量 [8.21.7]</p>	引張強度 (含浸硬化後)	・ () N/mm ² ・	ヤング係数 (含浸硬化後)	・ () N/mm ² ・	繊維目付質量	・ () g/m ² ・	シート厚さ	・ () mm ・	シート張り方向	※図示	定着方法	※図示	含浸接着樹脂	・低臭型 ・	プライマー	・低臭型 ・	箇所	※図示	大きさ	※図示	<p>測定記録項目 (1) 除去するアスベスト含有建材の種類 (2) 測定点の位置の図面 (3) 測定日時、天候、気流 (4) 試料採取条件 (5) 標本作製方法 (6) 使用顕微鏡の種類 (開口数を含む) (7) 計数条件 (HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む) (8) 繊維濃度 (位相差顕微鏡法の場合は総繊維濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維濃度) (9) 測定限界 (10) その他</p> <p>アスベスト含有吹付け材の除去 (レベル1) ・行う [9.1.3] 除去対象範囲 ※図示 除去方法 ※改修標仕9.1.3(b)(1)(i)~(w)による 除去したアスベスト含有吹付け材等の処理 ※密封処理 (二重袋梱包) ・セメント固化 除去対象範囲 ※図示 作業場の隔離 ・行う ・行わない</p> <p>アスベスト含有保温材等の除去 (レベル2) ・行う [9.1.4] 除去対象範囲 ※図示</p> <p>アスベスト含有成形板の除去 (レベル3) ・行う [9.1.5]</p>	<p>2 外断熱改修工事</p> <p>断熱材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類</th> <th>ホルムアルデヒド放散による区分</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>外装材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ・あり ・なし [9.3.3] 下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様 [9.3.3.4] 通気層 ・あり (mm) ・なし [9.3.4] 試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。 [9.3.4] 特記なき事項は、製造所の仕様による。</p> <p>3 ガラス改修工事 [9.4.2] 復原ガラスの厚さ 建具表による 復原ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分 ※U値=1 ・U値=2 [9.4.2]</p> <p>4 断熱・防露改修工事 [9.5.2.3]</p> <p>断熱材の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類等</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・保温板2種b</td> <td>※25</td> <td>※一般部</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・保温板3種b (スキン層付き)</td> <td>※25</td> <td>・接部分</td> </tr> <tr> <td>・吹付け硬質ウレタンフォーム</td> <td>※A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>打込み工法 ・吹付け硬質ウレタンフォーム ※A種 [G] 難燃性を有するもの ※断熱材補修部分</p> <p>現場発泡工法 ・吹付け硬質ウレタンフォーム ※A種 [G] 難燃性を有するもの ※断熱材補修部分</p> <p>5 屋上緑化改修工事 [9.6.1.2] 植栽基盤及び材料 [9.6.1.2] ・屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の種類等 ※図示</p> <p>工法 [9.6.3] かん水装置 ・設置する (工事区分は図示による) 既存保護層の撤去 ・行う</p> <p>6 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.7.3] 路床の構成及び厚さ [9.7.3] ・遮断層 厚さ (mm) ※150 ・凍上抑制層 厚さ (mm) ※150 ・フィルター層 厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※50</p> <p>路床安定処理 ※添加材料による安定処理 添加材料の種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 () kg/m (目標CBR ※5以上) ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m²以上 厚さ (mm) 0.5~1.0 引張強度 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1.5×10cm/sec以上</p> <p>塵土の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</p> <p>遮断層及び凍上抑制層の材料 ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込砂利 ・砂 厚さは図示</p> <p>発生土の処理 ※横外搬出適切処理 ・構内指定場所に敷均し ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に処分 (搬出調査等を監督職員に提出する)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ※行う ・行わない 路床の軟固め試験 ※行う ・行わない 砂の粒度試験 ※行う ・行わない</p> <p>路盤材料 [9.7.4] ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G]</p> <p>路盤厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※100</p> <p>路盤の締固め試験 ※行う ・行わない</p> <p>舗装材料及び厚さ [9.7.5.6] 車道部 ※改質アスファルト I 型 厚さ (mm) ※50 歩道部 ※ストレーアスファルト 厚さ (mm) ※30</p> <p>透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない [9.7.9]</p>	種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・	・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・	種類	防火性能	・	・	種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	※25	※一般部	・硬質ウレタンフォーム保温材	・保温板3種b (スキン層付き)	※25	・接部分	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	・	・	<p>7 PCB含有シーリング材処分</p> <p>・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する 採取箇所 計 箇所 採取箇所 ※図示</p> <p>・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析箇所 計 箇所</p> <p>・除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 「標準施工要領書」(日本シーリング工事業共同組合連合会・日本シーリング材工業会) による</p>																																																																																												
引張強度 (含浸硬化後)	・ () N/mm ² ・																																																																																																																																																																							
ヤング係数 (含浸硬化後)	・ () N/mm ² ・																																																																																																																																																																							
繊維目付質量	・ () g/m ² ・																																																																																																																																																																							
シート厚さ	・ () mm ・																																																																																																																																																																							
シート張り方向	※図示																																																																																																																																																																							
定着方法	※図示																																																																																																																																																																							
含浸接着樹脂	・低臭型 ・																																																																																																																																																																							
プライマー	・低臭型 ・																																																																																																																																																																							
箇所	※図示																																																																																																																																																																							
大きさ	※図示																																																																																																																																																																							
種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)																																																																																																																																																																					
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																																					
種類	防火性能																																																																																																																																																																							
・	・																																																																																																																																																																							
種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																																																																																					
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・																																																																																																																																																																					
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	※25	※一般部																																																																																																																																																																					
・硬質ウレタンフォーム保温材	・保温板3種b (スキン層付き)	※25	・接部分																																																																																																																																																																					
・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	・	・																																																																																																																																																																					
		<p>工事設計図</p> <p>建築改修工事特記仕様書 (その6)</p> <p>平成20年版</p>																																																																																																																																																																						